

『血液病レジデントマニュアル 第2版』

神田 善伸(著)

[評者] 聖路加国際病院・血液内科部長 岡田 定

●血液診療現場の最新手引書

2014年2月、約4年ぶりに内容が一新されて『血液病レジデントマニュアル 第2版』が発行された。神田善伸先生による単著である。

初版の『血液病レジデントマニュアル』にはお世話になった。新装第2版を手にして、パラパラと読んでみた。「見事にアップデートされている。これはすごい。使いやすそう」というのが第一印象である。

さっそく、血液の患者を担当している病棟レジデントたちに紹介した。「購入するように」と言っただけではないが、3~4日後には病棟の机の上に本書が並んでいた。彼らは「新しいもの、便利なもの、いいもの」にはとても反応が速い。

本書には、主要な血液疾患の基本事項、検査、診断、治療、マネジメントが凝縮されている。分厚い書籍を開かなくても、ポケットサイズの本で血液診療全般のエッセンスを学ぶことができる。それ以上に、現場の血液診療に必要な不可欠な知識を効率よく得ることができる。入門書としてもいいが、現場の手引書としてこれほどのものはない。

タイトルが「レジデントマニュアル」だからといって、「レジデントのためのマニュアル」と誤解してはいけない。「血液専門医のためのマニュアル」でもある。

血液専門医はレジデントよりもずっと血液診療の知識も経験もある。とはいえ、診療に必要な知識を全て記憶しているわけではない。最新の知識を見逃していることも少なくない。目まぐるしく改定

される診断基準、病型分類、重症度分類、予後分類、治療メニューなど、全部覚えている医師はいないだろう。

最終診断をして実際に治療を始めるとき、疾患によってはテキストでの確認作業がどうしても必要になる。そのとき「診断基準はあの本で確認しよう」「治療プロトコルはあそこで検索しよう」では、大変である。そこで本書の出番である。確認したい事項のほとんどが、本書一冊に詰まっている。今、ここの実臨床で必要な情報がそこにある。

それにしても血液診療のこれほど広い範囲を神田先生お一人でまとめられたのは、驚嘆すべきことである。日々蓄積されていく新しく有用なエビデンスやガイドラインを、このようにコンパクトで使いやすい形にまとめていくのは、並大抵の作業ではない。

本書の序文に「この作業を4~5年ごとに繰り返すことがいつまで可能かは私にもわかりませんが、自分自身への挑戦と考えています」とある。神田先生の「自分自身への挑戦」に大変お世話になっている身としては、ここで先生に大いに感謝したい。

本書第2版は、ちょうど2014年ソチ冬季オリンピックの開催中に出版された。4年後2018年は平昌(ピョンチャン)である。そのころには、『血液病レジデントマニュアル 第3版』に出会えるのだろうか。それも楽しみである。

● B6変型/頁456/2014年/定価:本体4,200円+税
[ISBN978-4-260-01903-3] 医学書院刊